

団体の概要 (N G O / N P O 用)

団体名 特定非営利活動法人 沙漠植林ボランティア協会

所在地	〒029-4606 岩手県胆沢郡衣川村大阪 51 TEL:019 - 752 - 3629 FAX:019 - 752 - 3923 E-mail:		
ホームページ			
設立年月	1990 年 9 月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 2002 年 2 月 12 日		
代表者	菊地 豊	担当者	菊地 豊
組 織	スタッフ 12 名 (内 専従 6 名) 個人会員 17 名 法人会員 名 その他会員 (賛助会員等) 512 名		
設立の経緯	1973 ~ 世界沙漠踏査 日本沙漠学会 入会 1990 NGO 沙漠植林ボランティア協会設立 活動 2002 NPO 法人認証取得		
団体の目的	・ 沙漠緑化植林の研究、実践、啓発 ・ 沙漠緑化専門家及び植林協力隊 派遣 ・ 農牧民の沙漠緑化植林支援 ・ 沙漠地産業振興 その他		
団体の活動 プロフィール	1990 ~ 中国、オルドス、クブチ沙漠の緑化植林 1994 ~ ホルチン沙漠で農牧民植林指導支援 累計 29,600ha 1999 中国建国五十年記念 外国人専門家「友誼奨」 2005 農牧民植林申し込み 475 戸 14,923ha 8 月実施分 254 戸 3,200ha 植林協力隊 14 隊 (252 名) 緑化植林コスト ha 当 2 万円以下実現 適地適木、ポット苗夏季実施 活着率 96%		

活動事業費 (平成16年度) 円

政策のテーマ

国連環境大学 沙漠緑化学部の創設

- 政策の分野
 - ・ 地球温暖化防止
 - ・ 沙漠地の持続可能な産業開発
- 政策の手段
 - 施設等の整備

団体名：NPO 法人 沙漠植林ボランティア協会

担当者名： 菊地 豊

政策の目的

沙漠地域を全面緑化して、新しい産業を興す

背景および現状の問題点

【背景】

地球各地の沙漠化は、人口急増による乱開発の結果である。

【現状の問題点】

- ・ 乱開発（過密放牧と粗法農業）を根本的に改革
- ・ 緑化植林を商品林（密植）から生態林（水源涵養）に改革
- ・ 行政的高コスト造林を農牧民的低コスト造林に転換

政策の概要

1. 日本が提唱して、国連環境大学沙漠緑化学部を創設。中心校を中国又はモンゴル国につくり、世界的沙漠緑化技術、システムの研究開発と、現地毎適正技術、システムの普及、人材の養成を行なう。
2. 世界各地に姉妹校をつくり、情報交流して研究開発力を高め、開発→応用→成果→問題→開発により、地球的緑化再開発を21世紀中に達成する。
3. 上記財源は、民間募金 - 地球緑化再生基金（寄付額は全て免税）と新税（環境税、CO2排出権取引税、水源林税等）で調達する。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

1. 世界沙漠緑化推進機構が沙漠緑化学部の具体案を国連各国に提案。国際条約等により、資金措置をする。
2. 学部中心校は、100万ha以上のキャンパス、10万人の研究教職員、学生その他が年間2兆円以上の予算で調査研究、技術開発、技術改革、緑化現地毎適正技術化等を行なう。
3. 各国で緑化学部校をつくり、共通課題解決のネットワークを深化し、低コスト・高成果（温暖化防止、水循環、自然エネルギーによる住民生活の向上）のための基礎技術、システムの世界同時レベルアップをはかる。
4. 資金の使い方を公明正大、高効率にする倫理道德を高め、点検、改善のシステムをつくり不適正使用は厳罰する。
5. 全ての情報を公開し、内部の自浄作用、外部からの批判・提案を行い、形骸化しないようにする。

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

1. 特別法による法人「日本沙漠緑化推進機構」をつくり、日本沙漠学会、沙漠緑林ボランティア協会等NGO、環境省、農林水産省、国土交通省等を構成員として、政策の実施主体となる。
2. 国際条約で「世界沙漠緑化推進機構」をつくり、各国の沙漠緑化推進機構の連合体となって、資金措置と政策の実施提携・協力を行う。
3. 独立機関「政策実施評価機構」をつくり、非効率・腐敗・形骸化を防止する。

政策の実施により期待される効果

1. 世界的沙漠緑化の基本技術（適地適木の発見、遺伝子工学による新植物の育成、栽培法等）が深化、普及する。
2. 現地毎緑化適正技術（低コスト化、高効率化栽培等）が確立して増産植物資源の多角利用（バイオマスエネルギー）がすすむ。
3. 新しい緑化技術を普及実施する人材が養成される。
4. 現状沙漠地が、緑化により生物資源が豊富になり現地住民の生活が向上し、黄砂発生、地球的温暖化が防止される。
5. 地球環境が安定する。

その他・特記事項

地球的沙漠緑化の波及効果

1. 黄砂発生を減少させ、国境外汚染も防止
2. 大気清浄により、太陽光、風力、バイオマスの新エネルギー源を飛躍的に利用
3. 緑化（植物機能）により、CO2固定化で地球温暖化防止
4. 広流域の水資源循環が改善（緑のダム）
5. 現地住民の生活基盤が改善され、難民、紛争が防止
6. 地球的環境改善

本協会の1990年以来のフィールドワークによって実証確認され、学会等に毎年報告されている。

添付資料：「沙漠緑化造林のコストとシステム」2004．5．18 第15回沙漠学会